守りたい 加茂の豊かな自然

守りたい加茂の豊かな自然 編集委員会

発刊のご挨拶



未来へのバトン

美濃加茂市長 伊藤 誠一

美濃加茂市は、豊かな大地と清流木曽川に代表される豊かな水に恵まれ、 多くの生き物を育む自然と共生しながら発展してきました。市の経営理念で ある「孫子の代まで住み続けられるまち」を推進するために、「里山千年構想」 など自然との共生を進める事業に取り組んでいます。

このたび、みのかも定住自立圏の8市町村が共同で自然環境基礎調査を行い、本書を刊行することとなりました。この圏域の自然環境が網羅されており、身近な自然への理解を深め、未来の世代へ引き継いでいくための大切な文献となっています。ぜひ、多くの皆様に手に取っていただき、地域を挙げて自然との共生の取り組みにご活用いただけることを願っております。

結びに、本書の作成にあたり、多大なご尽力を賜りました関係者の皆様に心から感謝申し上げ、 刊行にあたってのごあいさつといたします。



「守りたい加茂の豊かな自然」完成を祝って

坂祝町長 南山 宗之

「守りたい加茂の豊かな自然」の完成をお慶び申し上げます。またこれまで、調査や研究をされ、編集にご協力いただきました皆様に感謝申しあげます。 こんなにも多くの種が、絶滅危惧種や準絶滅危惧になっているのを、知りま した。そしてこんなに多くの外来種がいることもわかりました。

ぜひこのレッドデーターブックを、多くの方に見ていただいて、自然が危機にあるということを知ってもらい、少し自然に目を向けていただくようなきっかけになればと思います。さらに進んで、ネコギギやウシモツゴなどの繁殖活動に協力することや、外来種が増えないような取り組みに参加するなどの行動になると、この本もより生きてくると思います。私たちの環境は、まず私達で守っていきましょう。



ごあいさつ

富加町長 板津 德次

富加町は、加茂地域の西部に位置し、面積約16kmと小さな町ではありますが、町の北部の山地から中央部を流れる津保川と川浦川、平野部の田園など豊かな自然環境に恵まれ、多様な野生動植物が生息生育しております。

しかしながら、近年における私たちの日常生活や社会経済活動によって、

希少な野生生物の消滅などが危惧されており、この地域の豊かな自然を次の世代に引き継いでい くためにも、これらの保全に向けた取組みが急務となっています。

こうした中、「守りたい加茂の豊かな自然」が刊行されることとなり、各地域における生物多様 性や自然環境保全の取組みの基礎資料として、多くの皆様に活用されることを願っております。

最後に、本書の作成にあたり、多大のご尽力いただきました関係者の皆様に心から感謝とお礼 を申し上げます。



ごあいさつ

川辺町長 佐藤 光宏

「守りたい加茂の豊かな自然」刊行まことにおめでとうございます。

祖先から引き継いだ自然の遺産を克明に記録し、後世に伝えるとともに、 絶滅危惧種を保全しようという取り組みは、豊かな自然環境を守るうえで大 きな役割を果たすものと思います。

川辺町は、加茂地域の南西部に位置し、町の中央を飛騨川が南北に流れる自然豊かな町です。 珍しい植物も自生していますが、その中のひとつにアカヤシオがあります。若葉が出る前、枝いっぱいにピンクの花が咲くツツジ科の一種です。町では、子どもの優れた活動を認め、アカヤシオ賞という子ども表彰制度を制定しました。次代を担う子ども達が健やかに伸びやかに大きく育つとともに、美しい自然環境が守られるよう願っています。



「守りたい加茂の豊かな自然」発刊にあたって 七宗町長 井戸 敬二

七宗町は、鮮やかな彩りを放つ樹木の間を縫うように、飛騨川や神渕川、 そして幾筋もの支流の水面が輝く町であります。水と緑が織りなす四季折々 の景観が、訪れる人の心を癒やしてくれます。しかし、この七宗町にも絶滅 の危機に瀕している生き物がいます。

「守りたい加茂の豊かな自然」では、絶滅の危機に瀕している生き物に加え、人為的な影響などにより侵入した外来生物についても調査しています。今後は、この調査結果を町民や関係者の方々に広く発信していくとともに、環境行政にも活用し、人と自然が共生する「環境のまち」を目指してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本報告書の作成にあたり、ご尽力いただきました岐阜大学と美濃加茂自然史研究会の 先生方や関係者の皆様に心から感謝申し上げます。



刊行にあたって

八百津町長 金子 政則

「守りたい加茂の豊かな自然」の刊行、誠におめでとうございます。

八百津町は第5次総合計画を策定し「ひとと自然が響き合い 未来を奏でる 人道のまち やおつ」の下、自然環境において「自然と共生したまちづくり」を 目標に低炭素社会の実現を推し進めると共に、これまで町民が守り抜いてきた

農地や自然環境の保全を実施し、後世へ繋いでゆく各種施策を行っております。

当町においても稀少な動植物の生息が確認されており、既に県天然記念物として「ハッチョウトンボ群棲地」が指定されております。

このたびは 3 年間に渡る基礎調査を基に調製され、加茂地域の環境と生息する希少種が明示されたことから、より一層保全に努めて参りますので皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後に、本書を作成するにあたり、美濃加茂自然史研究会様や専門家の方々をはじめ、多くの 関係者の皆様に心から感謝申し上げます。



「守りたい加茂の豊かな自然」によせて

白川町長 横家 敏昭

私が住まいする所は、標高500メートルくらいになります。林道を少し上がった標高1,000メートル付近には、白樺が自生しミズナラの林が広がります。眼下には八百津町潮南、その先に濃尾平野が展開し伊勢湾に巨船が臨めます。半世紀以上も昔、渡り鳥を捕獲する「鳥や」というものがあり、そこ

からの名古屋方面の夜景に心躍らせたものでした。私達の少年期は、家に学習机があり、その机に向かい勉強するなどということはありませんでした。遊ぶのも自然、そして学びというのは、無意識のうちに自然からの学習であったと思います。私の家は白川の支流の源流域です。谷川には山椒魚(アンコウと呼んでいました)がいっぱい生息し、落ち葉の下で卵を見つけたりしました。今でもいます。一方最近、春一番に黄色い花を咲かせるマンサクが見られなくなったのは残念に思います。このように日々変化していく自然環境の中で、本書を未来に向けた生物多様性保全の一助として適切に対応していきたいと考えています。

最後に本書作成にあたり、ご尽力いただきました専門家の先生方や、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。



発刊にあたって

東白川村長 今井 俊郎

「守りたい加茂の豊かな自然」の発刊おめでとうございます。

岐阜県の東部に位置する東白川村は加茂郡に属し、標高 1,000m級の山々に囲まれ村内の約 90%を山林が占め、村の中央を東から西へ清流白川が貫流し、白川とその支流沿いに集落が分布する美しい山村です。

この美しい自然の中で、貴重な動物や植物が育まれていますが、近年の社会・経済活動や人々のライフスタイル豊かになってきた反面、野生生物の生態系が少しずつ衰退を余技なくされています。

「守りたい加茂の豊かな自然」では、加茂圏域の貴重な自然財産である野生生物種を掲載することで、その保護と保全に努めなければならないと再認識しました。

レッドデータブックの編集・発行作業にあたって多大なご尽力を頂きました委員の皆様をはじめ、関係者の方々に対し心から感謝申し上げます。

まえがき

美濃加茂市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村の8市町村からなる加茂地区は、木曽川や飛騨川、さらにその支流の白川などの水の恵みと広い山林を有しています。また、美濃加茂盆地の平野には水田が広がり、古墳時代や戦国時代の遺跡・史跡が残されていることから、古代よりこの地域の自然を開拓しつつ、多くの人々が暮らしてきたことがわかります。20世紀には日本全体で人口が増加し、都市が発達してきましたが、そうした中で、木曽川や飛騨川には水力発電のためのダムが作られ、山林はスギやヒノキの植林が進み、水田地帯は圃場整備をされてきました。その結果、加茂地区の自然は大きな変化を遂げてきました。しかし、この地域の自然がすべて失われたわけではありません。太古の昔から続く自然は強く、豊かであり、まだまだ多くの恵みを私たちにもたらしてくれます。それでは、どれほどの自然が残されているのでしょうか?

加茂地区の8市町村は、みのかも定住自立圏として様々な取り組みを進めていますが、その一つとして平成27年(2015年)度から生物多様性地域連携促進事業として自然環境調査を進めてきました。多くの人の協力を得て、実地調査や過去の標本の確認などを進めた結果、5347種の動植物の記録が得られました。種数のほとんどは植物と昆虫ですが、哺乳類や鳥類、魚類なども様々な種が確認されています。また、近年は外来種の侵入が問題となっていますが、確認された種の94.3%は加茂地区に昔からいる在来種で、外来種は5.7%にすぎないことがわかりました。

しかし、近年になって大きく数を減らしつつある在来の動植物もいます。それらは加茂地区における貴重な動植物種(加茂地区レッドリスト)として選定しましたが、そこでは水田地帯の動植物の減少が著しいことが示されました。水田地帯は圃場整備による環境の変化だけでなく、耕作放棄地の増加などの変化もあり、かつては身近だった人里近くの動植物が大きな影響を受けているようです。

こうした事実を、私たちはこの本の中にまとめました。野生の動植物だけでなく、この地域には独特な地形や地質も残されています。そうした自然の姿は「I. 加茂の自然」としてまとめました。保護するべき特徴的な地形・地質は「Ⅱ. 貴重な地形・地質」、減少しつつある動植物は「Ⅲ. 貴重な動植物種」として情報をまとめています。さらに、「IV. 外来種」として調査で確認された外来種を全てリストアップしています。これらは地域の自然の現状を知り、保全していくための基礎資料となります。この本の出版によって、一人でも多くの方が加茂の自然を見つめなおすきっかけとなり、豊かな自然を守る活動につながることを願っています。

平成31年3月

守りたい加茂の豊かな自然 編集委員会副委員長・岐阜大学地域科学部准教授 向井 貴彦